

実践活動事例

◆中地区ブロック

総	曲	輪	…	P 2	
愛		宕	…	P 5	
安	野	屋	…	P 7	
八	人	町	…	P10	
五	番	町	…	P13	
柳		町	…	P16	
清	水	町	…	P19	
星	井	町	…	P22	
西	田	地	方	…	P25

《中地区ブロック民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

1. 地域連携と協働強化：各団体との共催やネットワークづくりを推進
2. 相談・訪問活動の充実：住民との対話を通じて迅速な支援を展開
3. 災害対応力の向上：防災意識と備えを地域ぐるみで強化
4. 新任委員支援：活動手引きや心理的サポートで参加しやすさを向上
5. 見守り体制の整備：高齢者支援に多層的な担当配置で抜け漏れ防止
6. イベントによる絆づくり：顔の見える交流で地域のつながりを育む
7. 情報共有と連携強化：緊急時対応のための連絡体制を整備
8. 共生社会の実現：優しさと支え合いを育む安心・安全な地域づくり

「一隅を照らす」活動事例

中地区ブロック

総曲輪地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

事例事項

重点1 地域のつながり、地域力を高めるために

<ポイント>

住民が課題を抱え、孤立してしまうことを防ぐ「予防の視点」の取組みを重視していく。

<事例テーマ>

(1) 自治会・町内会活動と民生委員・児童委員活動との連携強化

【活動経過】

平成27年9月～12月までの3か月間、「まちなか地域包括支援センター」が主催する介護予防教室に参加したことがきっかけとなり、平成28年度から、60歳以上の高齢者を対象に「楽楽いきいき運動」をスタートさせました。立ち上げ当初は、月に2回のペースで開催していたが、令和元年からは週1回(4回/月)活動を行っています。

【活動内容】

活動内容は、体操だけではなく笑いヨガ、講話、お茶会など様々なメニューを提供しています。誰でも、何時からでも、何回でも参加ができ、地域の中で孤立しないような居場所づくりに務めています。高齢者が体操をするメリットとして、肥満や病気の予防・改善、ひざ・腰・肩など関節の痛みの予防・改善、認知機能の向上があります。また、体力の増強、冷え性の改善、ストレスの解消、睡眠の質の向上などの効果も期待できます。筋肉を鍛える運動(筋力トレーニング)は、筋肉とともに骨も強くすることから転倒骨折からの寝たきりの予防にもなります。更に、集団で体操を行うことにより、利用者同士の交流を促します。体操を通じてコミュニケーションを図ることで、仲間意識を芽生えさせ、互いの心身の健康維持にもメリットがあると思われます。外出する機会の少ない高齢者にとっては、精神的な安定をもたらす役割もあります。現に、参加者の半数以上の方が、体操に参加したばかりの頃に比べて、「体力が増強した」「足の筋力が高まり、歩く距離が長くなった」「同士で食事やお茶をしに行ったりと行動範囲が広がった」「笑うことが増えて体操に通うことが楽しみの一つになった」などの感想を述べ、表情がいきいきとされている印象です。

【効果】

- ・ 地区全体に広く知られる行事として定着した。
- ・ 運動やコミュニケーション、笑いなどの効果を実感し、介護予防に対する意識が更に向上した。
- ・ 高齢者の方が、安心して楽しく参加できる集いの場となった。
- ・ 高齢者同士のコミュニケーションが活発になり、健康に対する意識が向上した。
- ・ 笑う回数が増え、脳の活性化やストレスの緩和につながっている。
- ・ お互いに協力し合うことが増え、気分の改善や社交性が向上している。
- ・ 活動場所から遠方であり参加しにくい、又は参加できないという方がいる。

【課題】

- ・ 講師の確保。人気の講師は継続が不可能な場合がある。
- ・ 体操スペースは市民プラザのスタジオをレンタルしているため、活動の維持費に係る。
- ・ 公共交通機関は恵まれているが、駐車場がないため、遠方の方は参加しにくいとの意見がある。

課題に関しては、少しでも解決ができるように努力しながら「地域に開かれた集まれる場所」として、地域の関係機関、関係者と協力し、これからも活動を継続していきたいと思えます。

活動の様子

今年度から、総曲輪地区

ふるさとづくり推進協議会が

参画します。

民児協としての支援の立ち位置を

今後どのようにするか

みんなで検討しています。



(様式 2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

- ・ 総曲輪地区は、富山市の中心部に位置し、高層マンションや商業施設、事業所等、住民構成が多様化している。例えば、マンション住民と地元既存住民との価値観の相違などが表面化しコンフリクトも発生している。また外国からの移住者との間に異文化共生などの課題が持ち上がっている。
- ・ 新しい移住者世帯では、子育て世帯が増えているにも関わらず子どもの数の把握が出来ずまた交流もない。一方地域住民は、高齢者単身世帯が急増している。
- ・ 民生委員児童委員の職務の高度化や扱い分野拡大のため委員への過剰負担が懸念され、人員の不足感も増している。現役世代の委員は、活動する時間帯や活動量に制限がある。また体力や体調の不安を抱えながら活動している高齢委員もいる。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

- ・ 自治振興会や社会福祉協議会等の活動に参画協働するプロセスの中で、現状の問題を把握し、課題として設定し、定例会で協議して解決策を決定し速やかに実行する。
- ・ 一人暮らし高齢者や高齢者世帯が日々安心して暮らせ、不測の事態にも素早く適切に対応できるように、“ささえあいネットワーク活動”を今後もしっかりと継続する。
- ・ 新しく移住して来られた子育て世帯の子どもを把握するとともに交流の場を提供するため、ちびっこクリスマス会を毎年実施しているが、今後もしっかりと継続する。
- ・ 地域支援活動の一環として、災害時における住民の避難や安否確認、避難場所での生活支援等を行う中核組織の一つとして、“総曲輪地区防災士会”を発足した。災害時に実践できるよう勉強会などを実施し交流を深め、地区避難訓練に積極的に参画する。
- ・ 民生児童委員の負担を軽減し末永く活動ができるよう“民生委員の補助委員制度”を富山市でも検討していただく時期がきていると考える。この事案の検討を要望する。

(3) 今後、取り組んでいく目標

- ・ 総曲輪地区の他団体との共催や協働事業を強化・継続する。例えば、ささえあいネットワーク活動の継続、ちびっこクリスマス会の継続、地区自主防災組織の活動の継続などをさらに強化し継続する。

(4) 連携する機関(重要度順)

- ・ 総曲輪地区自治振興会等など各種地元組織、例えば総曲輪地区社協、総曲輪自主防災組織、ふるさとづくり連絡協議会、公民館活動団体(地区センター含)
- ・ 福祉関連専門職組織(まちなか地域包括支援センター、中央保健福祉センター、地区内福祉施設、病院)教育組織などこども関連機関(保育園、幼稚園、小中高等学校等)

(5) 実施時期等(進め方・手順等・今後の取り組み課題等)

- ・ 進め方・手順は昨年同様、今後も継続・協議・強化する。
- ・ 自主防災組織について、4回の講習会(6~10月)避難訓練(10月)を実施する。

《総曲輪地区民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026~2028』》

- ・ 総曲輪地区の他団体との共催や協働事業(ささえあいネットワーク活動、ちびっこクリスマス会、地区自主防災組織の活動)を強化・継続する。
- ・ “民生委員の補助委員制度”への事案検討を行政に要望する。

「一隅を照らす」活動事例

中地区ブロック
愛宕地区民生委員児童委員協議会

(様式1)
事例項目

重点1 地域のつながり、地域力を高めるために

＜ポイント＞

住民が課題を抱え、孤立してしまうことを防ぐ「予防の視点」の取組を重視していく

事例テーマ

(1) 自治会・町内活動と民生委員・児童委員活動との連携強化

町内会の会議や行事に参加し町内役員との連携づくりを強める。孤立を防ぐためには、特に町内役員との情報活動が重要になる。各役員が目の届く、「向こう3軒、両隣」の情報収集により孤立状況の把握に努めていく。

(2) マンション住民の情報不足による対応不足

愛宕地区は富山駅周辺の地域柄マンションが多く、今もなおマンション建設が進んでいる。当然セキュリティも強化されており今後の大きな課題である。

(3) 能登半島地震における地域住民等アンケート調査結果（愛宕校下）

内 容	人数	内 容	人数
性別 / 年齢			
男性	33	女性	44
19歳以下		20～29歳	
30～39歳		40～49歳	
50～59歳	1	60～69歳	3
70～79歳	28	80～89歳	33
90歳以上	12		
世帯状況			
ひとり暮らし世帯	31	高齢者世帯	38
障がい者世帯	2	ひとり親世帯	
その他	6		
震災時、誰かに声をかけられましたか			
親族	25	近隣住民	14
町内会役員	9	民生委員	28
その他	1		

震災時に避難しましたか			
避難した	4		
避難しなかった	73		
避難しなかった理由			
避難場所を知らなかった	9	避難する必要があると思っ た	63
避難したくてもできなかった	5	その他	

<震災時に感じたことや困ったことは どのようなことですか>

避難場所の鍵が開いていなかった。

トイレの手洗い場から漏水した。

歩行が困難なため避難することが難しい。

避難場所が遠い。

足がすくんで炬燵から動けなかった。

震災時と水害時との避難場所は同じなのか？

避難したが寒くて服装に気を付けないといけない。

いざという時、何もできないことが分かった。

(様式2)

活動強化方策

(1) 地域で見えてきた現状と課題

誰もが安心して暮らせる地域づくりに対する地域の理解不足。

(2) 地区民児協として課題への取組

地域の身近な相談員とし、日々の支援活動を通し情報収集に努める。

(3) 今後、取り組んでいく目標

地域で支え合いながら生きる、手助けを出来る様に活動強化。

(4) 連携する機関

社会福祉協議会・自治振興会・町内会・地域包括支援センター等。

(5) 実施時期等

訪問活動で問題を発見し、優先順に実施。

《愛宕地区民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

1. 地域の安心と福祉を向上し、支え合いの絆を強化する。
2. 住民と連携し、相談活動を通じて課題解決を促進。
3. 支援ネットワークを広げ、協力機関との結びつきを強める。
4. 訪問活動を通じ、迅速で優先度の高い対応を実現。

「一隅を照らす」活動事例

中地区ブロック
安野屋地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

テーマ 「能登半島地震発生時の単位民児協の対応等について」

(1) 地域基本情報

安野屋地区の特徴は、富山地方鉄道の安野屋電停付近にあり北陸新幹線や富山県内の主要鉄道が乗り入れる富山駅にもアクセス良好な地域であります。

又、城下町時代の富山城の守りの一角を固めた地で歴史的建造物や碑が残っています。人口は2,725人、世帯数1,337世帯、高齢化率32.7%となっています。

(2) 地域の状況はどうだったか

地震発生時刻の1月1日午後4時10分頃我が家は親戚3世帯12人で新年の集まりで料理を前に記念写真を撮るところで震度5強の揺れを初めて体験しました。

孫達はびっくりしてコタツの中や机の下に潜り、大人はテレビを抑え、物を必死に掴んで揺れが収まるのを待っていました。

早々、町内の見回りを行い建物や構造物や町内の家々を尋ねて、避難場所の連絡等を確認しあった。

なお、避難準備をしている家やこのまま家に居るという人や避難した人など各家庭其々の対応だった。

見回りをするうちに、津波が来るといった情報やガス漏れ臭がすると色々の情報が飛び交っていた。

消防団やガス会社と連絡がなかなか取れなかった。現場は相当混乱していると感じた。

2時間程経ってから、避難所が開設されるとT市議からメールがあり、急いで主な町内役員関係者やひとり暮らし高齢者や避難行動要支援者宅を訪問し避難所開設された事を伝え、避難する場合は寒さ対策と必要最低限のものを持って避難所に来るように近隣の方に依頼し、避難所に向かった。

避難所は芝園中学校体育館2階で大型ボイラー4台が稼働していたが、33,36m×33,36m=1,113㎡の広さでは寒かった。

中学生が柔道所の畳やマットなどを1階から運んで休めるスペースを確保したり、市関係者が保管していたテント等を組み立てて、80名程が一夜を過ごし、私は20時過ぎに自宅に戻った。

(3) 民生委員としてどんな行動をしたか

ひとり暮らし高齢者や避難行動要支援者の安否確認は当日できなかつた方もおられたので、後日確認する事があったのでアンケート調査票に集計表1,集計表2にまとめた。

能登半島地震における地域住民へのアンケート（集計表 1）

問	設問の内容	人数合計	内容	人数	内容	人数	内容	人数
1	性別	106	男性	31	女性	75		
2	年齢	106	19歳以下		20～29歳		30～39歳	
			40～49歳	1	50～59歳	2	60～69歳	5
			70～79歳	41	80～89歳	41	90歳以上	16
3	世帯状況	102	ひとり暮らし世帯	56	高齢者世帯	31	障がい者世帯	0
			ひとり親世帯		その他	15		
4	震災時、誰かに声をかけましたか	200	親族	67	近隣住民	30	町内会役員	33
			民生委員	48	その他	22		
5	避難しましたか	100	避難した	25	避難しなかった	75		
6	避難しなかった理由	84	場所を知らない	3	必要がない	75	できなかった	6
			その他					

能登半島地震における民生委員へのアンケート（集計表 2）

問	設問の内容	人数合計	内容	人数	内容	人数
1	当日単位民児協で連絡を取りましたか	9	はい	2		
			いいえ	7		
2	単位民児協構成員数	9	民生委員児童委員・主任児童委員			9
3	単位民児協の活動内容	22	当日		翌日	
			委員の安全確認		委員の安全確認	2
			地域の状況把握	4	地域の状況把握	6
			要配慮者の確認	6	要配慮者の確認	4
4	災害時の単位民児協に安否確認手順がありますか		はい（特記事項）		いいえ	○
5	地域の状況把握	93	地域の状況把握の日数	57	要配慮者状況把握日数	36
6	委員は震災時避難しましたか	9	避難した	2	避難しなかった	7
7	避難しなかった理由	5	避難場所を知らなかった		避難したくもできなかった	
			避難必要が無いと思った	5	その他	

（4）どんな課題が見えたか

富山県内で震度 5 強を体験した人はほとんどいないことがわかった。さらに、震度 5 強の災害時は避難所の開設がされるのを地域住民はほとんど知らなかった。

津波がくると情報があり、東北の知人から高台に逃げろとメール等が何件もあった。

以上のことから、今回体験した課題をまとめてみた。

① 冬季に開設できる避難所用の備品が不足している。

ほとんどの人は何も持たずに避難しており、水や食料、毛布が無く、家に取りに戻ったりしていた。

② 暖房器具が不足しており、体育館を暖める能力がなかった。

③ 避難所の鍵の管理者が非常時に避難所に駆けつけられない場合があり、預かる担当者には絶えず精神的な負担や緊張感がある。

④ 津波ハザードマップの存在や意味を理解していないために、過度の不安感に襲われ

て避難している人が多かった。

- ⑤ ひとり暮らし高齢者や障害者の避難が難しかった。
- ⑥ 避難者が情報を把握できるように TV の設置が必要だと思った。
- ⑦ 避難所の動線表示を大きくした方が良かった。
- ⑧ 市職員等の支援スタッフには、腕章・ヘルメット・スタッフ用上着等を配布し、避難者がわかるようにした方が良い。
- ⑨ 支援物資が届くのが遅く、毛布など備蓄しておくべきであり、災害時マニュアルや備品の見直しが必要である。

(様式 2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

今回の地震の発生直後は建物の倒壊、道路の寸断、交通渋滞によって行政の防災機関が直ちに機能しないことが十分に考えられる。

安野屋地区においても、この地区の災害上の特性を事前に把握し、もしもの時に備える防災体制を構築する必要があります。

(2) 地区民児協としての課題への取り組み方

地区住民における防災組織を構築し「安野屋地区防災計画」を定め、それにより平時から備えを行い、地区住民の生命・暮らしを守るための力を養っていきます。

(3) 今後取り組んでいく目標

1. 日頃より地区住民が防災に対する意識を持つ地区にすること
2. 地区住民が日頃より関わり合いを持ちお互いに思いやりを持てる地区にすること
3. 避難所開設・運営訓練を実施する。

(4) 連携する機関

安野屋地区自治振興会、町内会、富山市防災危機管理課、芝園中学校、安野屋地区民児協

(5) 実施時期

今年度、防災対策事業として避難所開設・運営訓練を実施することになった。

本事業により、行政と地域住民の連携による避難所開設・運営のノウハウを蓄積することで、自主的な訓練実施のきっかけ作りや他地区での訓練の実施につなげられる。実施は令和 7 年 11 月 9 日（日）に決定した。

《安野屋地区民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

- ・災害に対する意識の向上と備えの強化をはかる。

「一隅を照らす」活動事例

中地区ブロック
八人町地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

事例事項

重点3 民生委員・児童委員制度を守り発展させていくために

<ポイント>

年々深刻化する「なりて不足の解消」を図るため、我々の活動事例を簡単に紹介する事例集を作成・配布し、民生委員・児童委員の存在や活動内容を知ってもらうことで、次期委員候補予定者が抱くであろう活動に対する不安感、負担感を下げ、なりて確保に務めた。

事例テーマ 持続可能な民生委員活動を展開するために
(「なりて」のリクルートを円滑に)

1 現状

3年に1度の改選時に、3分の1から半数の委員が改選される中、「なりて確保」が年々困難化している。

結果、日中に仕事を持つ人、すでに地域の役職を複数担っている人などに無理を押し、就任してもらい、とりあえずの人数確保を余儀なくされる事態となっている。

2 「なりて確保」を円滑に進めるためには

適任者と思われる多くの方々に就任を断られる背景には、民生委員活動の内容が「漠」すぎて、過大な責任や負担を負うことを想像され、固辞されるケースが多いように思われる。

このため、実際の活動事例を紹介することにより、過重な活動を強いられるのではという不安感を払拭することが肝要である。

3 具体的な取り組み内容と効果

民生委員活動の柱は、行政や専門機関への「つなぎ役」である。このことがわかるような活動事例を紹介した簡単なパンフレットを作成し、これを委員候補者のリクルートの際に使用、就任に対する漠とした不安感などの解消に努めた。

また、自治振興会、町内会や長寿会等が開催する諸行事においても配布して、我々の活動を身近に感じてもらい、気軽に相談を持ちかけてもらうきっかけにも利用した。

なお、これらの活動事例を蓄積していけば、就任後における重要な活動のバイブルとしても活用できるものとなると考えている。

4 作成にあたっての留意点

リクルート用のパンフレットに記載する事例には、極力シンプルなものを選定し、特殊事例や手間のかかったものは避け、就任にあたって、不安や負担を感じさせないことが必要と考えている。

いずれにしろ、実際の活動事例を紹介することで、過重な活動を強いられるのではという不安感を払拭しつつ、具体的な活動イメージを持ってもらうようにすることが肝要。

◇◇パンフレットの構成◇◇

1 民生委員とは

- ・ 民生委員法に基づき、厚労大臣から委嘱された非常勤の地方公務員であること
- ・ 児童福祉法に定める児童委員を兼ねていること
- ・ 給与の支払いはなく、ボランティアとしての活動であるが、活動にかかる通信費や、文書作成等にかかる実費は費用弁償されること
- ・ 任期は3年であること(再任が可)

2 主な役割

① 見守り

自らも地域住民の一員として、担当区域の高齢者や障害者等の安否確認や見守り、子供たちへの声掛けを行うこと

② つなぎ

医療や介護の悩み、子育ての不安や、経済的な困窮による生活上の心配ごとなど様々な相談に応じて、必要な支援が受けられるよう、地域の専門機関とのつなぎ役となること

3 具体的な活動事例

- 老夫婦世帯の方から、「自宅内の移動が難しくなってきた。つかまり棒などを設置したいが、市の助成がないだろうか」との相談あり
⇒夫婦とも介護認定を受けていないとのことであり、地域包括支援センターに連絡、介護保険の利用手続きを進めてもらった
- 地区外の介護施設関係者から、徘徊している高齢者がいるようだとの連絡があり
⇒早速、当該者宅を訪問、会話などはしっかりしているが、ひとり暮らしであることから地域包括支援センターに支援をお願いするとともに、他市に居住する血縁者に状況を説明、定期的な見回りをお願いした。
- 担当地区の「生活保護受給者」で見守り対象の一人暮らし高齢者が、死去。市の担当部局から、未精算の医療費等の処理について協力依頼あり
⇒市の担当者に同行し、銀行窓口で第三者支払い手続きを、委員名義で処理

(様式 2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

- ・若手住民の他地区マンションへの移住、残された住民の高齢化・独居化の進行
- ・これによる民生委員活動の需要増加。その一方、活動の担い手確保が年々困難化

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

民生委員活動の持続的な展開に当たっては、「なりて確保」が最重要課題であり、

- ① 民生委員就任への漠とした不安感の解消
- ② 有職者が担える程度への活動量の適正化
- ③ 活動中の負担感の軽減

以上の3課題に重点的に取り組んでいく。

(3) 今後、取り組んでいく目標

住民にとって、相談しやすい民生委員、後継者の心理的ハードルが低い民生委員活動を目指す。

(4) 連携する機関

自治振興会、町内会、長寿会、スポーツ協会

(5) 実施時期等

活動内容の見直しは、随時。なりてリクルートは一斉改選年の春に集中的に実施

《八人町地区民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

重点3 民生委員・児童委員制度を守り、発展させていくために

【テーマ】

なり手不足の解消を目指し、民生委員活動の具体的な活動を紹介する活動事例集(毎年増補)を更新、配布し、民生委員活動へのイメージの明確化を図る。

このことにより、委員就任を躊躇する心理的垣根を低くするとともに、就任後の具体的な活動の手引きとする。

あわせて、活動の簡素合理的な運営に努め、なりて確保を図る。

【活動強化目標】

- ・ **地域との協働を強化**: 地元の行事に参加すると共に、各団体との活動の輪を広げる。
- ・ **参加のしやすさ向上**: 委員活動の具体例や手引きを示し、新任委員の心理的負担感の軽減を目指す。
- ・ **困りごとに寄り添う環境づくり**: 委員を含め相談しやすい信頼感のある地域を構築。
- ・ **なり手の確保と継続**: 簡素で効率的な活動運営で新しい人材の活動基盤の整備を目指す。

「一隅を照らす」活動事例

中地区ブロック
五番町地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

1 事例項目

地域のつながり、地域力を高めるために

<ポイント>

地区内の各種団体と連携して地域の「気になる人」を早期に発見し、適切な支援につなげる。万一、災害が発生した時は、地域住民が声を掛けあって避難できるようにする。

2 事例テーマ

地区内の各種団体との連携による地域住民の見守り強化と「気になる人」の早期発見

3 概要

(1) 地域の特性と活動の背景

当地区では、次々と高層マンションやアパートが建設され、そこに住む方が増えている。また、地域住民の高齢化が進み、一人暮らし高齢者が増加している。

そのような状況の中で、近所付き合いのない方や閉じこもりがちな方、窮状を周囲に相談出来ない方も増えてきたことから、次のような意見が出てきた。

- ① 「住みよい地域づくり」のためには、地域住民が集い、交流できる場づくりが大切。
- ② 地域の行事に参加する方の顔ぶれが固定化してきているため、参加者を増やす方策が必要。
- ③ 「気になる人」を早期に発見するには、全ての町内会に福祉委員の設置が必要。
- ④ 万一、地震や集中豪雨等による災害が発生した時は、先ず避難することが大切。
- ⑤ 見守り活動や災害時の避難誘導には、対象となる方の個人情報に配慮した上での情報共有が必要。

(2) 活動の内容

- ① 全ての町内会に福祉委員を設置し、町内会長と共に地域住民の見守りをして相談窓口になって頂くことにした。「気になる人」への対応は、担当の民生委員と連携し、守秘義務を守り協働で活動する。
また、災害発生時には、町内会長と福祉委員に避難誘導を担って頂くことにした。
- ② 個人情報の保護に配慮した「防災福祉マップ」を作成し、支援を必要とする方の情報を共有することで、地域住民の見守りと災害時の避難誘導に役立てることにした。マップの配布先は民生委員、町内会長、福祉委員、消防団、自治振興会長、地区センターとした。
- ③ 地区内の各種団体と連携して地域住民が集える行事を企画、実施する。地域住民が集い交流することで、お互いに助け合い、相談し易くなることが期待できる。

<地区内の主な行事>

(お花見の会・一人暮らし高齢者お食事会・サマーフェスティバル・住民運動会・

楽しく物忘れ予防の会・ニコニコ体操・いきいき脳トレサロン・ワイワイサロン・
みんなで歌おう会・歩こう会)

- ④ 敬老会事業として75歳以上の方を対象に「空くじなしの抽選会」を実施する。景品は民生委員が対象者宅へ配布する。
- ⑤ 富山市社会福祉協議会のいきいきクラブ事業を活用して弁当を作り、民生委員が「特に心配な一人暮らし高齢者」宅に配布する。その際に声掛けして安否確認をする。

(3) 活動の成果

- ① 全ての町内会に福祉委員を設置し、支援が必要だと思われる方の情報を共有したことから「気になる人」の情報が多く寄せられるようになってきている。
- ② 地区内の各種団体と連携して、行事を企画し実施しているが、各種の団体が協働することで多くの方が参加され、地域住民の交流の場となっている。三世代交流の場も増えてきている。
- ③ 敬老会事業として75歳以上の方を対象に「空くじなしの抽選会」を実施したが、景品を民生委員が配布することで、日頃、地域の行事に参加していない方からも貴重な情報を得ることができた。
- ④ 心配な一人暮らし高齢者に対して弁当を作り配布しているが、その際の声掛けが見守り活動に役立っている。

(4) 問題と改善点

地域で実施する行事に参加する方の顔ぶれが固定化してきており、参加されない方とのコミュニケーションをどのようにして増やしていくかが課題となっていたので、敬老会事業として75歳以上の方を対象に「空くじなしの抽選会」を実施することにした。民生委員が対象者宅へ景品を配布することにしたので、近所付き合いのない方や閉じこもりがちな方、アパートやマンションにお住まいで日頃地域の行事に参加していない方への声掛けの機会となり、貴重な情報を得ることができた。

(5) 今後のアクションプラン

現行の活動をさらに工夫、改善しながら継続していく。

(6) 添付資料



お花見の会



福祉委員との連絡会議（研修会）

(様式 2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

次々と高層マンションが建設され、マンションやアパートに住む人が増える一方、高齢化が進み一人暮らし高齢者が増加している。

そのような状況の中で、近所付き合いの無い人や閉じこもりがちな人、窮状を周囲の人に相談出来ない人が現れてきた。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

- ① 全ての町内会に福祉委員を設置し、地域住民の見守りと相談窓口になって頂き、災害発生時は、町内会長と福祉委員に避難誘導を担って頂くこととした。
- ② 「防災福祉マップ」を作成し、要支援者の情報を共有して、見守りと災害発生時の避難誘導に役立てることにした。(配布先：民生委員・町内会長・福祉委員・消防団・自治振興会長・地区センター)
- ③ 各種団体と連携して地域住民が集える行事を企画し実施。
(お花見の会・一人暮らし高齢者お食事会・サマーフェスティバル・住民運動会・楽しく物忘れ予防の会・いきいき脳トレサロン・ワイワイサロン・みんなで歌おう会・歩こう会)
- ④ 敬老会事業として75歳以上の方を対象に「空くじなしの抽選会」を実施し、景品は民生委員が対象者宅へ持参した。ひきこもりがちな方やアパート・マンションにお住まいで、日頃地域の行事に参加しない方との声掛けの機会となり、貴重な情報を得る事ができた。
- ⑤ 「特に心配な一人暮らし高齢者」への配食活動

(3) 今後、取り組んでいく目標

現行の活動を継続し発展できる活動をする。

(4) 連携する機関(重要度順)

自治振興会(町内会)・社会福祉協議会・福祉委員・各種関連団体・地区センター

(5) 実施時期等(進め方・手順等・今後のとりくみ課題等)

「気になる人」の情報や相談が寄せられるようになり、早期発見及び対処ができるようになってきているので現行の活動を継続していくことが重要。

《五番町地区民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

重点1 地域のつながり、地域の力を高める

- ・地区内の各種団体と連携して地域の「気になる人」を早期に発見し適切な支援につなげる。
- ・災害の発生時は、地域住民が声を掛け合って避難できるようにする。
- ・見守り強化と各種団体との連携による地域住民の集える機会づくり。

「一隅を照らす」活動事例

中地区ブロック
柳町校下民生委員児童委員協議会

(様式1)

事例4 能登半島地震における地域住民等アンケート調査

テーマ 「能登半島地震発生時の単位民児協の対応等について」

1) 地域基本情報

柳町校下は富山市中心部に位置し、人口 5,729 名・3,219 世帯で高齢化率 36.44%、富山市平均を大きく上回っている。

2) 地域の状況はどうだったか

1月1日16時頃、富山市で震度5の強い地震に遭遇したが幸い自宅では微細な被害であったので、外に出ると、多くのが柳町小学校体育館に向かっている。体育館前が騒々しく感じた、当然体育館には鍵がかかっている、開けた方が良いのではと思い、学校開放で鍵を管理している前自治振興会長に相談し開けることとなった。市の担当者が未着のため避難者に(地域が自主的に開放している・校舎内には入れない・トイレはある・非常に寒い)など話し体育館に入っていた。体育館を解放した旨、自治振興会長他数人に報告した。その後体育館には、振興会長他振興会役員・地区センター所長・市の職員3名が詰めておられ、ストーブの使用については再度の地震の可能性があるので使用しないとのこと。又地区センター所長が防災本部に確認後、備蓄倉庫より、毛布50枚・パン100食を提供した旨伺った。体育館に集まった年齢層は：10代から70歳代18時時点で約50名グラウンドには10台程度車内での避難者がおられた。当日体育館での宿泊者は6世帯13名で翌日7時過ぎには退所された。又当校下では陸橋の街灯が破損した、塀が倒れたが町内で対処した、神社の鳥居が破損した。数件の家で灯籠が倒れた、温水器の配管が破損し家中水浸し等の情報がありましたが、人的被害が幸いなかったのが救いです。

3) 民生委員としてどんな行動をしたか

発災後メールで連絡できる委員に。①皆さんの安全を優先に行動をお願いします。②関与先の一入暮らしの方や避難行動要支援者の安否を確認してください。③暗くなっています、明日でも大丈夫です、出来る範囲内で確認をお願いします。旨連絡しました。

4) どんな課題が見えたか

富山県は他府県と比べ、比較的地震の少ない地域とされており、岐阜県と並んで47都道府県で最も少なく防災意識が低い地域とされる。悪い事とは思わないが、テレビでの津波避難の呼びかけに過剰に反応した方々が多く、当柳町校下は、津波ハザードマップでは非対象地域であり周知が必要、本当に避難しなければならない人たち、救助に向かう人たちの妨げになる可能性がある。

今回は元旦でもあり(当地区に関しては)ひとり暮らしの方も家族と一緒にいた方も多く、これが普通の日の夜であればもっと混乱したであろうと思います。

5) これらのことをふまえて

- ① ひとり暮らし高齢者や障害のある方への対応の難しさ、福祉避難所の周知
- ② 冬季で避難者が多くないときの地区公民館の使用(地区公民館も避難場所に指定する)
- ③ 市職員等の支援スタッフには、腕章・ヘルメット・スタッフ用上着等で分かるように
- ④ 地区民児協として、発災時の対応マニュアル作成の必要性がある
各民生委員・児童委員が発災時自主的に働くにはマニュアルが必要

⑤ 多くの方が何も持たずに避難されていた、最低限の防災用品を持つことが必要

⑥ ペット連れの方への対応難しいが必須事項だと思います

【集計表1】 能登半島地震における地域住民へのアンケート

問	設問の内容	人数	内容	人数	内容	人数
1	性別	80	① 男性	21	② 女性	59
2	年齢	81	① 19歳以下 ③ 30～39歳 ⑤ 50～59歳 ⑦ 70～79歳 ⑨ 90歳以上	0 2 0 32 6	② 20～29歳 ④ 40～49歳 ⑥ 60～69歳 ⑧ 80～89歳	1 1 7 32
3	世帯状況	80	① ひとり暮らし世帯 ③ 障がい者世帯 ⑤ その他	62 5 2	② 高齢者世帯 ④ ひとり親世帯	11 0
4	震災時、誰に声をかけられましたか		はい	68		
			① 親族 ③ 町内会役員 ⑤ その他	39 11 7	② 近隣住民 ④ 民生委員	14 26
			いいえ	12		
5	震災時に避難しましたか	80	① 避難した ② 避難しなかった	10 70		
6	避難しなかった理由	86	① 避難場所を知らなかった ③ 避難したくてもできなかった	6 7	② 必要が無いと思った ④ その他	67 6
<p>・避難場所を知らなかった(7%) 避難場所が寒かったので引き返した、2名の方足が不自由で避難できなかった。近所の方や民生委員の声掛けが非常にありがたかった。</p>						

【集計表2】 能登半島地震における単位民生委員・児童委員へのアンケート

問	設問の内容	人数	内容	人数	内容	人数
1	当日単位民児協で連絡を取りましたか	10 3	① はい ② いいえ	10 3		
2	単位民児協構成員数	17	民生児童委員・主任児童委員	17		
3	単位民児協の活動内容	31	当日		翌日	
			① 委員の安全確認 ② 地域の状況把握 ③ 要配慮者の確認	3 7 7	① 委員の安全確認 ② 地域の状況把握 ③ 要配慮者の確認	2 5 7
			災害時の単位民児協に安否確認の手順がありますか	はい 特記事項(あれば記入)		いいえ
5	地域状況把握	42	① 地域の状況把握の日数	20	② 要配慮者の確認日数	22
6	委員は避難したか	13	① 避難した	2	② 避難しなかった	11
7	避難しなかった理由	13	① 避難場所を知らなかった ③ 避難の必要性が無いと思った	0 11	② 避難したくても出来なかった ④ その他	0 2

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

・柳町校下は、富山市中心部に位置し、人口は、5,729人。高齢化率は、36.44%と富山市の平均より上回っています。又、古くからの住民の住み暮らすエリア、新たな住民の住み替えが進んでいるエリア、またアパートなどに一時的に暮らす人々が多い地域など、それぞれの担当地区の事情によりその課題は様々です。令和7年12月には、活動しやすくすることを目的に担当地区の組み替えが計画されており、委員の負担が減ることが期待されています。

・毎月行われている定例会は、みんながフラットで言いたいことを言い合え、アドバイスし合える良い関係が形成されており、定例会の場が互いを支え合える場となっています。

・しかし、任期の終了が近づいてくると半数近くの委員が交代を希望することなどから、委員交代の折に仕事の内容を丁寧に説明し、納得・理解して仕事を受けるなどの引き継ぎが出来ていない可能性があり、その結果委員の交代を早めているものと推測されます。

民生児童委員の仕事は、地域の皆さんとの信頼関係が重要で、信頼関係構築のためにある程度の期間、民生児童委員を継続する必要があると思われます。

委員継続のためにも、校下内の委員の助け合いが今後ますます必要になってくるものと思われます。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

・「在宅ひとり暮らし高齢者台帳」の登録者比率が他の同規模地域と比べると下回っています。民生児童委員の活動の質を高めるためにも、登録者数を増やすための活動が今後重要になってくるものと思われます。

・さまざまな課題を抱えた人びとを支え、適切な支援につなげるためにも、まずは担当地域の現状把握に努める。

・災害に備えた地域づくりを進めるため、発災時の柳町民児協としての対応を進める。

(3) 今後、取り組んでいく目標

・すでに地域にある組織との連携を強め、柳町校下としての総合力を強化する。

・「一人暮らし高齢者」「高齢者のみ世帯」「さまざまな課題を抱えた人びと」の実情調査活動その中から、気になる人を発見し、適切な支援につなげる。

・やなぎまち子ども食堂への協力（高齢者を含めたコミュニティカフェ）

(4) 連携する機関（重要度順）

・柳町校下自治振興会並びに各種地元組織

・福祉関係組織 ・柳町清水町包括支援センター・中央保健福祉センター・やなぎまち子ども食堂などの関連組織

・保育所・小学校・中学校などの教育機関

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

・重要度の高いものから逐次進める。

実態調査活動に伴う、福祉票・福祉マップ等の整備

《柳町校下民生委員・児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

地域関係団体と協力し、「地域住民が笑顔で安心・安全に暮らせる共生社会を目指す」

「一隅を照らす」活動事例

中地区ブロック
清水町地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

【事例】能登半島地震における地域住民アンケート調査

「令和6年1月1日能登半島地震発生時の単位民児協の対応等について」

(1) 地域基本情報

清水町地区は、富山市中心地よりやや東部に位置し、西町と不二越との間に開けた古くから住宅地と商店などで成り立ち、大きなマンション、アパートも少ない地域です。旧清水町小学校を主として20町内で清水町地区を構成しています。令和6年3月現在 人口は4,004人、世帯数1,957世帯、高齢化率37.19%となっています。富山市の高齢化率平均より高く、空き家が目立つようになってきています。

(2) 地域の状況はどうだったか

地震発生時刻の1月1日午後4時10分頃我が家族は県外(千葉県)帰省中の子供家族と夕食の準備中でしたが、揺れが始まるとすぐに子供家族は、外に孫を連れて避難行動をとっていました。

震度5強の揺れを初めて体験しましたが、千葉に住む子供家族は避難行動が訓練されているのか早かったと思います。私たち夫婦はただ揺れが収まるのを柱につかまっているだけでした。

私の実母(90才代)は一人中央通りの14階建てマンションに在住しているので、安否確認に子供たちが向かいましたが、エレベーターが止まり高齢者は低層階へ階段でやっと降りることができました。

町内の見回りを行い建物や塀の損害等を見て回ったが外見からは判らなかった。

後日、基礎やモルタルの壁にひびが入った家が数件有ることが判る。

なお、清水町地区では避難所開設が1月1日17時準備されましたが、開設された案内連絡がなく、ひとり暮らし高齢者や避難行動要支援者に避難の必要性があるとは思わない状況でした。

電気、水道のライフラインに被害がないことから、家に居るといふ人が多かったです。津波が来るといふ情報も海岸線から離れているので、テレビなど状況を心配して見ているだけでした。

避難所は旧体育館で大型ボイラー4台が稼働し備蓄の毛布、食事が配布されました。

私は避難所開設も知らず自宅で家族そろって元旦の食事を18時頃からしながらテレビを見ているだけでした。翌日、元旦に留守の一人暮らしの高齢者を訪問しましたが、元旦に温泉地や子供宅に行っていたりしてなかなか連絡がとれないので安否確認も難しいものでした。

周りに被害が目立っていないことや、避難した方も13名(内外国人5名)が一夜を過

ごし、翌日朝自宅へ帰宅したとのこと。避難所は翌日1月2日17時に閉鎖しました。緊張感はありませんでした。

(3) 民生委員としてどんな行動をしたか

今回の地震では民生児童委員各自ひとり暮らし高齢者の安否確認は当日ほとんどされませんでした。

清水町地区では、地区防災会が主催で毎年避難訓練を実施していますが、避難指示が無かった為、訓練時の様に安否確認、避難所への誘導などしませんでした。区民児協の連絡網により会長から指示もなくLineで各民生委員の連絡だけでした。

(4) どんな課題が見えたか

富山県内で震度5強を体験した人はほとんどいないことがわかった。

震度5強の災害時は避難所の開設がされるのを地域住民はほとんど知らなかった。

津波がくると情報があり、東北の知人から高台に逃げろとメール等が何件もあった。

以上のことから、今回体験した課題をまとめてみた。

- ① 冬季に開設できる避難所用の備品が不足している。
ほとんどの人は何も持たずに避難しており、水や食料、毛布が無く、家に取りに戻ったりしていた。
- ② 暖房器具が不足しており、体育館を暖める能力がなかった。
- ③ 避難所の鍵の管理者が非常時に避難所に駆けつけられない場合があり、預かる担当者には絶えず精神的な負担や緊張感がある。
- ④ 津波ハザードマップの存在や意味を理解していないために、過度の不安感に襲われて避難している人が多かった。
- ⑤ ひとり暮らし高齢者や障害者の避難が難しかった。
- ⑥ 避難者が情報を把握できるようにTVの設置が必要だと思った。
- ⑦ 避難所の動線表示を大きくした方が良かった。
- ⑧ 市職員等の支援スタッフには、腕章・ヘルメット・スタッフ用上着等を配布し、避難者がわかるようにした方が良い。
- ⑨ 支援物資が届くのが遅く、毛布など備蓄しておくべきであり、災害時マニュアルや備品の見直しが必要である。

清水町地区では、昨年8月に防災機器を購入。市に頼らず地域でも防災対策をとっていますが、大きな災害時に避難者のみんなを受け入れられるか不安です。

最終的には、各町内会長、町内防災会、町内福祉推進委員、そして地区民生児童委員が協力して安否確認、避難誘導を市、地区センターなどの情報を一本にまとめて行えるよう普段より打ち合わせ訓練をしなくてはいけないと痛感しました。

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

高齢化が進んでいるため、売却土地が増え新しい住人が近所付き合いのない人やマンション、アパートの住人が閉鎖的になっている。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

- ① 20町内すべての町内に福祉推進委員を配置し、身近な見守りをお願いして、民生委員、町内会長に情報提供をお願いしている。
- ② ひとり暮らし高齢者の行動に関して地域包括センター、ケアマネジャー等と民生委員が情報を共有していく様にシステムを構築したい。
- ③ 要支援者の安否確認等を町内会、防災会と連携して取り組みたい。
- ④ 生活保護世帯など閉じこもりがちな人、災害時の避難誘導、案内を町内会や防災会と連携していきたい。
- ⑤ 地域で高齢者、子供などに各種団体全体で交流できる行事を企画運営したい。
(三世代交流会、納涼フェスティバル、クリスマス会など)

(3) 今後、取り組んでいく目標

自治振興会(町内会)、地区社会福祉協議会(福祉推進委員)、防災会、民生児童委員が、情報を共有して見守り、災害時の避難誘導を標準化して新旧交代してもスムーズに進められるようにする。

(4) 連携する機関(重要度順)

自治振興会(町内会長)福祉推進委員、地区センター、地域包括センター
地区防災会、各種関連団体

(5) 実施時期等(進め方・手順等・今後の取り組み課題等)

現状を確実に全町内に推し進めていく。
町内単位でなく町内間のつながりをすすめる。
情報を共有していくためにデジタル化を進める。

《清水町地区民生委員児童委員協議会『活動強化方策・地域版2026~2028』》

重点 1 地域、町内、近所のつながりを高めみんなで安心できる町へ
各種団体合同で顔が判るイベント行事の実施

重点 2 緊急時の対応を地域連携、情報共有化
命のバトン、ひとり住まいの高齢者等連絡先を確実に

「一隅を照らす」活動事例

中地区ブロック

星井町地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

重点1 地域のつながり 地域力を高めるために

テーマ 自治振興会はじめ各種団体の活動と地区民児協との連携強化を図る

〈はじめに〉

星井町地区(旧星井町小学校区)は、北はキラリ(市立図書館)辺りから南は神明社の手前まで、西は国道41号線から東は市電通り沿いの地域である。大田口通りから始まる旧飛騨街道(別称ブリ街道)が通り、富山市科学博物館、旧近代美術館等もあり、生活環境として落ち着いた地域である。

しかし、近年、地区の児童生徒の数が激減し、高齢化が進んでおり、令和6年12月末の調査では、住民2,531人に対し、65歳以上の高齢者は932人(36.8%)であり、周辺地域と比較しても極めて高齢化率の高い地域となっている。

〈民生・児童委員の現状〉

星井町地区民児協は、8名の民生・児童委員(男4名と女4名)と1名の主任児童委員(女)で、70歳代男1名、60歳代男3・女3名、50歳代女2名の構成である。9名中8名の委員は就業しており、地区の役職も兼ねている場合が多く、時間的なゆとりはほとんど無い、また、就業していない委員でも地域の役職を複数兼ねており(例:民児協会長は自治振興会長と公民館運営委員会委員長等を兼務している)、忙しい合間をみて民生・児童委員の仕事に当たっている。

先にも記している様に、本地区は高齢化率が極めて高く、ひとり暮らし高齢者名簿には247名、高齢者世帯名簿には174世帯が登録されている。当然ながら、これらの全てを管轄することはできないのですが、担当地域の状況を把握することは、民生・児童委員として重要なことであり、心がけて現状の把握に努めている。また、委員同士の連携も進めており、定例会での話し合いだけでなく、ベテラン委員や各専門家のアドバイスも積極的に求めている。

〈各種団体の活動と連携を図る〉

① 三世代ふれあい歩こう会

自治振興会・スポーツ協会・ふるさとづくり協議会・社会福祉協議会が合同で、春(4月)と秋(10月)に、県内の桜の名所などの自然探索や文化的施設、公園等の見学に出かけている。民生・児童委員もひとり暮らし高齢者に参加を勧め、見学補助や手助けを行い、毎回多くの方に参加してもらっている。



② 早朝ウォーキング

5月～11月の第2日曜日、朝7時に星井町地区センターに集合、準備運動後、1時間を目安にしたコースを設定し、ゴミ拾いをしつつ、周辺地域の名所・旧跡等をめぐる企画である。ひとり暮らしの方や高齢者も多数参加している。

③ お茶会サロン&交通安全教室

年に3回、地区のお寺や銭湯等を会場として、高齢者中心の交通安全教室を行っている。終了後はお茶会やカラオケ大会等を行い、よい交流の場となっている。

④ その他

- ・ 公民館活動（味噌作り体験・熊手飾り教室・和紙あかり教室・藍染教室等）
- ・ ふれあい昼食会・見学会
- ・ 中央保健福祉センター主催の行事
- ・ 横田記念病院や長谷川病院の企画事業等

このような行事は、自治振興会・体育協会の企画だったり、ふるさとづくり協議会・社会福祉協議会等の企画だったり様々であるが、民生・児童委員も協力して、企画・運営にあたっている。また、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯等に参加を呼びかけたり、チラシを配布したりして、啓蒙活動に協力している。

〈今後の活動〉

コロナ感染の影響もなくなり、世の中の活動が元通りに行われようとしています。

そのような中で、民生・児童委員の重要な役割は、「ひとり暮らし高齢者」はもとより高齢者の方々との結びつきをより一層深めていかなければならない。そのためにも、地域での活動や行事等をお知らせすることに努めるとともに、下記に示したカードを作成し、配布することで、民生・児童委員との結びつきを深めていくことに努めてきた。

ゴールデンウィーク を迎えて

令和〇年度もスタートし、早ひと月経とうとしておりますが、お元気にお過ごしでしょうか、民生・児童委員の〇〇です。

今年は、3月の暖かい日々の影響で桜や花木が例年より早く見ごろを迎えました。コロナ感染症も小康状態で人々の動きも活発になってきておりますが、皆様におかれては充分にお気を付けください。

また、ロシアのウクライナ侵攻等に伴い、物価の高騰が激しく、生活への影響も多々あります。何かありましたらご連絡ください。

TEL□□□-△△△△-〇〇〇〇

暑中お見舞い申し上げます

民生児童委員の〇〇です。猛暑の続く日々、如何お過ごしでしょうか。

熱中症に対して、水分補給や適度なエアコン使用等、配慮をお願いします。

富山消防署の※ひとり暮らし高齢者家庭への防災訪問が8月以降実施されます。（※避難行動要支援者名簿に登録されている75歳以上のひとり暮らし家庭のことです）よろしく申し上げます。

悩み事や困ったこと、不安なことなどあったらご連絡ください。

携帯□□□-△△△△-〇〇〇〇

(様式 2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

令和6年12月末現在、星井町地区の人口2,531人に対し、65歳以上の人口932人で、高齢化率が36.8%である。これは中地区ブロックにおいて最も高い比率を示している。よって、ひとり暮らし高齢者だけでなく、高齢者世帯や三世代の家族においても地域のイベント等への参加を促し、地域で高齢者を見守る体制作りに努めることが望まれる。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

星井町地区は、公民館活動や各種団体の活動が活発に行われている。しかしながら、参加する方に偏りがあり、広く高齢者の方々への啓蒙活動が徹底していない。また、ひとりでは参加しづらい方への誘いの一言や動きが今一つ活性化していない。

(3) 今後、取り組んでいく目標

(1) (2) で述べているように、地域全体で高齢者の方々を大切にしているという姿勢を前面に出していくような取り組み方が必要と思われる。

(4) 連携する機関（重要度順）

- ・自治振興会(町内会)・長寿会・スポーツ協会・各種団体
- ・地区センター・地域の医療機関・まちなか地域包括支援センター・中央保健福祉センター・角川介護予防センター

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

イベント毎に、自治会や民児協をはじめ取り組み方を検討していきたい。各団体が活動の負荷がかかりすぎると本来の活動がないがしろになってしまうことも心配される。バランスのとれた活動が望まれる。

《星井町地区民生委員児童委員協議会『地域版活動強化方策 2026～2028』》

重点1 地域のつながり、地域の力を高める

- ・高齢者の情報を共有し、いろいろな団体や機関が関与する体制を構築する。
- ・高齢者の家族や近親者との連携を確保しておくこと。
- ・高齢者の担当者を、主・副・従と三段構えにして、落ちこぼれることがないようにする。

「一隅を照らす」活動事例

中地区ブロック

西田地方校下民生委員児童委員協議会

(様式1)

事例2 さまざまな課題を抱えた人びとをささえるために

民生委員児童委員の私が担当する2つの町内があり、私が住んでいる町内は、65歳以上の高齢化率52%と西田地方校下の中で最も高く、さまざまな課題を抱えた高齢者の生活向上に取り組んでいます。民生委員児童委員を2期目も満了近くなっている中、さまざまな課題を抱える人たちにどんな活動ができるか私なりに町内会、老人会の皆様の協力を得ながら行っている主な取り組みを紹介します。

前任者より引き継いだ1期目は、コロナ禍の最中で声かけ活動すらできない状況で本来の民生委員活動ができずにいました。

◎「ケアネット活動」と「おしゃべり会」



コロナウィルスの感染レベルが2から5に移行した3年前（令和4年5月）より、私が住む町内において町内会、老人会、民生委員等で構成する「ケアネット活動」を行い、民生委員一人ではできない日頃からの声掛け、相談ごとなど情報を共有しながら、支えあい活動を行っています。

また、ケアネット活動と同時に町内公民館等を会場に60代から90代の女性が月1回集まり「おしゃべり会」を実施しています。集まりを楽しみに待っている方もおり、とても大切な「おしゃべり会」になっています。



◎災害用名簿作成

能登半島地震から、民生委員の一員として自分のできることは何か？令和6年度には、全世帯（2町内分）の災害用名簿作成にあたり、住民の方々の理解と協力を得、個人情報守秘義務を守りながら災害用のみの使用とした名簿の作成を世帯ごとに作成することが出来ました。これらの得た情報を災害時等にどう各町内（町内会長に相談しながら）で民生委員活動の範囲で活かすことができればと思います。

◎住民同士のトラブル等

○警察沙汰

- ・町内を大声で騒ぎ立て、隣人の車にキズを付け、警察に通報される。
- ・アパートの住人同士がちょっとしたことからトラブルが発生し、警察沙汰になった。
- ・生ごみや汚物を自宅の裏側に捨てる行為が目立ち、まちなか地域包括支援センターに報告。また、警察の生活安全課にも来ていただきました。

○ごみ問題

- ・燃えるごみの中に缶等が混じっている。缶・瓶など洗って無い。
- ・回収後に出される方やごみそのものを出す日を間違っている。等々。

○対策として

- ・回収後直ぐにカギをかける。(実施中)
- ・管理方法に少し問題が残るが監視カメラを設置し違反者の発見。(実施中)
- ・朝・夕に町内を巡回し、姿を見かけたら声掛けをしています。(実施中)

活動事例

○関わった当時60代姪夫婦家庭に上がり込んだ80代の叔父について

※令和3年10月～令和5年12月（2年3か月間）

夫は腰を痛めてから仕事はせず、糖尿病で目も不自由で自動車免許の更新もできず、引きこもりが続き、朝からビールという生活。妻は、前々より精神障害があり、仕事が長続きせず無職の状態の家庭の所へ県外にいた叔父は姪に当たる家に上がり込み、毎日のようにカップ酒。姪に大きい声で怒鳴り、物を投げるなど理由は姪の夫が働かないとのこと。そうした中、令和3年10月姪の夫が交通事故死。姪は、叔父の恐怖から逃げてばかりで拳銃の果てに自分の家に叔父一人を残し市営住宅に引っ越し。残された叔父は、当初は姪からの金銭補助があったがそれも途絶え、食べるものに徐々に不自由となり隣家の方と私（民生委員）が中心となり支援活動がスタート（令和4年6月～）しました。成人保健福祉相談係、まちなか地域包括支援センター、長寿課福祉課などたくさんの部署の支えで月1回ペースで曜日を代えながら支援を行ってきました。また、中央警察生活安全課にもお世話になりました。

○お世話をしている途中から

- ・住民票はどうなっているの？健康保険証はどうなっているの？見守りの後半頃に届く
- ・年金はどうなっているの？・・・年金はもらっていない（見守りの中で判明）
- ・誰も何も分からない。ただ現在お金が無いことだけがわかる。

町内の納涼祭に焼きそば・焼き鳥・お茶を差し入れするが、窓の所に置く。翌朝食べたか確認すると食べてなく、夏場で傷んでいるから処分しようとすると言った。猛暑の中、動けなくなって、声も弱弱しい。この状況から心配でまちなか地域包括支援センターへ連絡し、時間外にも関わらず夕方来て下さり、救急車を呼んで搬送。やっと病院へ。そのあと施設入所となり一安心。

長かった2年3か月間でした。当初、先が見えずいつまで家族を見捨てた人の見守りをしなければいけないのとボヤキも出ました。

市（行政）の人たちは淡々とこなしているが、私どもはお世話するのが初めての為、大変さと他人事では済まされない経験でした。叔父は、人が行きたび怒鳴り散らし、「ほっとけ」の一点張りで会話にならない人でした。

家の中は、ゴミだらけで玄関に新聞紙等が散乱して足の踏み場もなく、片付けが大変でした。

私は、民生委員活動は、行政とのパイプ役と考えてきました。しかし、まちなか地域包括支援センターの社会福祉士、主任介護支援専門員の方には大変お世話していただきました。相手を逆なです、寄り添い、相手の身になっての行動には感動を覚えました。長かった2年3か月間でしたが大変お世話になりありがとうございました。また、担当する町内には今回のような支援内容までという事例はありませんが、さまざまな課題を抱えた人びとをささえる一人として、これからも関わられたらと思います。

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

福祉行政の行き届かない人への民生委員児童委員のアンテナ的役割が重要視される

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

定例会を通して、民生委員児童委員同士課題の共有化を図る。また、事例検討会を開催し、課題解決のための改善策、検討や総括を行う

(3) 今後、取り組んでいく目標

校下内の各種団体の協力と地域の「優しさで見守り」を育む

(4) 連携する機関（重要度順）

自治振興会、富山市（長寿福祉課 中央保健福祉センター 社会福祉協議会等）、長寿会連合会、地域包括支援センター、警察（生活安全課）、地区自主防災会等

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

定例会等を通して、また関係機関と連携し、その都度課題の共有を図る取り組みを行う

《西田地方校下民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

重点2 さまざまな課題を抱えた人びとを支えるために

校下内の各種団体の協力と関係機関との連携で地域の「優しさで見守り」を育む